

## ～課題解決型言語活動「オリジナル英語劇」～

### 1 テーマ

中学校外国語科への滑らかな接続を目指した小学校外国語活動の展開  
～第6学年におけるプロジェクト型タスク活動の工夫を通して～

### 2 ねらい

自ら課題を設定し、自主性を持って創意工夫する言語活動(プロジェクト型タスク活動)を通して、児童が感じる達成感や自己有用感を自信につなげるとともに、中学校外国語科の学習に対する不安を軽減させる一助となるようにする。これらの成果を基に、小学校外国語活動から中学校外国語科へ滑らかに接続していける第6学年児童の育成を目指す。

### 3 研究の内容

(1)児童の実態について																		
児童 質問	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	q	
ア	○	▼	○	▼	○	○	□	▼	○	▼	○	▼	□	□	○	▼	□	○7人(41%) ▼6人(35%) □4人(24%)
イ	○	□	▼	▼	▼	○	○	▼	▼	□	○	▼	□	▼	○	○	▼	○6人(35%) ▼8人(47%) □3人(18%)
ウ	○	○	○	□	○	○	○	▼	▼	□	○	○	▼	○	▼	○	▼	○10人(59%) ▼5人(30%) □2人(12%)
エ	○	○	○	▼	▼	○	○	○	○	▼	□	○	○	○	○	○	▼	○9人(53%) ▼5人(30%) □3人(18%)
オ	○	○	▼	○	○	○	○	○	○	▼	▼	○	▼	○	○	○	□	○11人(65%) ▼4人(24%) □2人(12%)
カ	○	▼	○	○	▼	○	○	○	▼	□	○	○	□	○	□	○	□	○10人(59%) ▼3人(18%) □4人(24%)
キ	▼	▼	○	▼	▼	○	○	▼	□	□	▼	▼	▼	○	□	▼	▼	○4人(24%) ▼10人(59%) □3人(18%)
ク	○	▼	▼	□	○	▼	○	○	▼	▼	▼	□	▼	○	▼	○	▼	○5人(30%) ▼9人(53%) □3人(18%)

○=そう思う(不安はない)  
▼=そう思わない(不安がある)  
□=どちらでもない(分からない)

(■)は英語を習っている児童 (平成25年11月13日実施 中妻小学校第6学年1組17名)

ア 友だちと英語でゲームすることは楽しいですか  
イ 英語でチャンツや歌を歌うことは楽しいですか  
ウ ALTや先生と英語でコミュニケーションすることは好きですか  
エ 英語を言ったり聞いたりすることは楽しいですか  
オ 外国に興味がありますか  
カ 外国語活動の時間は楽しいですか ※自由記述の典型的な例  
児童c『英語のしくみが分かったときや、英語が読めたときやった一と思う』  
児童h『パトリック(ALT)に英語が通じたときはうれしい』  
児童k『英語で言われたことにすぐ答えられたときや、自分で考えた英語が通じたときに楽しい』  
児童p『英語でほめられたときです』  
キ 中学校に進学することに不安はないですか。不安が無い場合は○に、不安に思うことがある場合は▼に、分からない場合は□に丸をつけましょう。 ※自由記述の典型的な例  
児童d『他の小学校の人と仲良くなれるか不安です』  
児童e『一人だけみんなと違う中学校に行くから』  
児童m『クラスがはじめてばらばらになるし勉強も難しくなるから』  
ク 中学校で英語の学習をすることに対して不安なことがありますか。不安が無い場合は○に、不安に思うことがある場合は▼に、分からない場合は□に丸をつけましょう。  
※自由記述の典型的な例  
児童b『小学校で習った英語が中学校でも通用するか不安』  
児童j『英語のテストとかが不安です』  
児童q『習っている子についていけるか不安だし、授業もついていけないかも』

アンケートによれば、質問項目ウやカについて、約6割の児童が「そう思う」と答えていることから、本学級の児童は外国語を使ってみることにに対しては肯定的であり、また、外国や異文化に対する興味は比較的に持っていることが分かった。しかしながら、注目すべきは質問項目アとイである。質問項目アについては、ゲームを楽しみと思えなくなっている児童が4割近くに上った。また、質問項目イについては、歌やチャンツを楽しみと思えない児童が半数近くに達していることが判明した。単調なゲーム活動に対し、楽しさを感じなくなっていることや、歌やチャンツを大きな声で歌うことに対する抵抗感があることは授業をしていて感じつつあったが、アンケートからもこの問題点が示された。質問項目カからは、外国語活動の時間が楽しいと思える理由について、児童c～pの意見にあるように、自力で気づいたり考えたりしたうえで、通じたり誉められたりする事から楽しさを感じる傾向にあることが分かった。さらに、質問項目キ、中学校進学に対する不安については、6割近い児童が漠然とした不安を抱いていることが分かった。また、質問項目クについては、中学校から始まる外国語科の学習を不安に思う児童が半数を超えた。しかも、不安はないと答えた5人の児童のうち3人は塾や英会話スクールで英語を習っている児童であった。このように、アンケートから、本学級児童の2つの問題点が浮かび上がった。ひとつは「単純なゲームや歌などの活動に対する意欲低下」、もうひとつは「中学校外国語科への不安感」である。これらの問題を改善したり軽減したりできるような早急な手立てが必要であると考えた。

## (2) 基本的な考え方

「プロジェクト型タスク活動」とは、ある特定の課題を解決するために、数時間をまとめ取りしてグループや学級などで児童の主体性と自主性を最大限尊重しながら創造的な活動をさせることである(高島,2009)。プロジェクトとは、本来、教師と児童がともに作り上げる活動や単元であるが、このカリキュラムにおいては、児童がまず活動の課題を見つけることから始まる。その課題に対して、グループ活動を通して解決のためのゴールを決め、コミュニケーション活動を通して課題解決を図っていく。また、高島(2009)は、「課題解決の過程で、児童たちは必要な活動を選択し、決定していくため、必然的に主体的で創造的な学びが児童から生まれてくる。」とも述べている。つまり、プロジェクト型カリキュラムにおける外国語活動で展開されるタスク活動は、児童が主体的な共同作業を通して、外国語である英語を活用しながら、与えられた課題を解決していく言語活動である。また、小学校外国語活動においては、「児童が慣れ親しんだ言葉を使って、ある目標を達成する活動」をタスク活動と言うことが示されている(大城・直山,2008)。児童が「自分たちで創り上げる」という1ステップ上の課題をもち、創意工夫しながら、自分たちの手でひとつのものを作り上げるこの「プロジェクト型タスク活動」を通して、児童の外国語活動の学習に対する関心や意欲が高まること、プロジェクトを成功させる経験することにより、「達成感」と「自己有用感」を味わって外国語に対する自信を得てくれることを期待した。この取り組みにより、児童の外国語活動に対する関心・意欲・態度が高まり、また、成功体験から得られた自信が、中学校外国語科への不安を軽減する一助となることで、滑らかに中学校外国語科に接続していく児童を一人でも多く育成したいと考えた。

加えて、本研究を進めるにあたっては、次の3項目を、研究を貫く視点として扱う。一つ目の視点は、既存の知識や児童の生活と関連があること、二つ目は、自分自身で選択・決定できるよう保証すること、三つ目は、コミュニケーション活動があるということである。

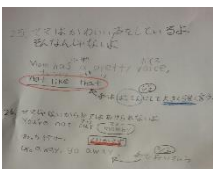
## (3) 方法



### a) 授業について

①	対象	北茨城市中妻小学校 6 学年 1 組 (児童数 17 名)
②	単元名	『オリジナルの英語劇を発表しよう』
③	実施時期・授業時数	平成 26 年 1 月～3 月 全 11 時間扱い
④	指導者	学級担任, ALT

### b) 授業の検証 ①授業観察 ②振り返りカードの内容分析 ③事前・事後アンケート

### c) 単元構成の工夫

時間	学習内容	主な活動内容と評価
1	○ゴール(目標)の確認 ○オリジナル英語劇を考える話し合い活動	○学級会で話し合っただけの「6年生を送る会」での学級の発表内容とゴールについて共通理解をする。 ○自分たちらしい英語劇について考える。 ○劇の内容に関するキーワードを辞書を使ったり ALT に聞いたりして英語にし、書きとめていく。 <b>視点①</b> 【言語・文化/外国の童話との違いに気づく。】
2	○オリジナル英語劇の配役や内容の決定 ○小グループでの脚本作り	○オリジナル英語劇の配役や内容について共通理解し、効果的な練習になるよう話し合う。 <b>視点③</b> ○小グループに分かれての脚本作りに取り組む。担任や ALT の助言を受けながら英語の台詞を書きとめたり、通じやすいかどうか話し合ったりする。 【関・意・態/オリジナル性ある脚本になるよう共同し、活動に積極的に取り組んでいる。】
3	○台詞等について、より通じやすくするための話し合う活動 ○ボディランゲージ等の演出の工夫と改善	○デモンストレーションをし合っただけの工夫をする。 ○ボディランゲージについて、担任や ALT に助言を求めながら、協力して工夫、改善する。 <b>コミュニケーション活動としての話し合いに意欲的に取り組んだ。視点③</b> 【関・意・態/より良い発表になるよう、積極的に話し合いに参加している。】
4	○オリジナル英語劇の練習 ○小道具作り	○英語劇の練習をする。 ○場面ごとに区切って全体で通して練習する。 ○必要な小道具作りをする。 【慣れ親しみ/英語劇の台詞を、言ったり聞いたりしてその表現に慣れ親しんでいる。】
5	○オリジナル英語劇の第1回リハーサル 	○担任と ALT に対してリハーサルをする。 ○リハーサルの様子はタブレットで撮影し、大型テレビでその様子を確認しながら話し合う。 <b>タブレットのカメラ機能で動画を撮り、再生して工夫改善した。視点②</b> 【関・意・態/意欲的にリハーサルに取り組み、タブレットで撮影した動画を見て、工夫や改善をしようとしている。】
6	○第1回リハーサルを受けての話し合い活動	○リハーサル後の改善点について確認しあう話し合いをし、情報を全員で共有する。 ○改善された所を重点的に練習する。 <b>視点②③</b>

		【関・意・態／リハーサル後の話し合い活動に積極的に参加している。】
7	○第1回リハーサルを受けてのふり返し活動 	○ALTと発音と声量のチェックをする。 ○担任と声量や立ち位置のチェックをする。 ○小道具を作ってステージに配置する。 与えられた時間内に、より見栄えのする衣装を製作できるように児童が話し合いを行った。【視点②】 【慣れ親しみ／自分の台詞の発音や音量が、発表にふさわしくなるよう繰り返し練習する。】
8	○オリジナル英語劇の第2回リハーサル 	○担任とALTに対してリハーサルをする。 ○リハーサルの様子はタブレットで撮影し、大型テレビでその様子を確認しながら工夫、改善する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">リハーサルの様子は、児童がタブレットで動画撮影し、その場で再生して練習に生かしていた。2回のリハーサルにおいて、児童は有効な工夫ができた満足気だった。【視点②③】</div> 【関・意・態／意欲的にリハーサルに取り組み、タブレットで撮影した動画を見て話し合い活動を行い、工夫や改善をしようとしている。】
9	○第2回リハーサルを受けてのふり返し活動	○リハーサル後の改善点について確認しあう話し合いをし、情報を全員で共有する。 ○改善された所を重点的に練習する。【視点②③】 【関・意・態／話し合い活動で積極的発言する。】
10	○「6年生を送る会」でのオリジナル英語劇『オオカミと赤頭巾ちゃんと7匹の子ヤギ』の発表 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">&lt;配慮した点&gt; 演じた様子は、学校のブログにアップロードして欲しいという意見が多く、すぐに動画掲載した。</div>	○オリジナル英語劇『オオカミと赤ずきんちゃんと7匹の子ヤギ』を協力して演じる。 ○「6年生を送る会」の最終プログラムとして行い、1年生を含む全校児童と保護者、地域の方々に発表する。 ○5年生の児童会役員や放送委員と連携して記録してもらうようにする。 オオカミのお腹につめる石を会場内の児童にあらかじめ渡し児童参加型にする工夫をした。【視点②③】 【関・意・態／自分たちで作り上げた英語劇を楽しみながら演じている。】
11	○オリジナル英語劇のVTR鑑賞と感想発表会	○本番のVTRを大型テレビで鑑賞する。 ○お互いに良かった点を伝え合う。 ○単元を通しての体験について、感想を書く。 【関・意・態／本番後の振り返り活動に進んで参加し、良かった点について積極的に発言している。】

## 6 成果

### (1)外国語活動の学習に対する関心・意欲・態度の向上

児童の生活に密着したタスク活動であり、課題設定から課題解決までのすべての活動を児童の主体性や創造性に任せるこのプロジェクト型タスク活動は、児童の外国語学習に対する関心と意欲を高めることができる活動となった。

### (2)外国語に対する不安感の軽減

英語劇をオリジナルで創作する活動を行い、成功体験の機会を得ることで、児童は達成感や自己肯定感を感じ、外国語を使うことに対する自信を持つことができた。このことは、外国語学習に対する自信をもとに、外国語科の学習に対する不安感を軽減する一助になったと考える。同時に、児童の振り返りカードからも読み取れるように、児童が学級の仲間とひとつになって所属感を味わえたことは、学級経営的な成果の一つにもなった。

これらの成果から、外国語活動に「プロジェクト型タスク活動」を取り入れることは、児童が円滑に中学校での外国語学習に接続していける手立てとして有効であると考えられる。

## 7 その他

